

「Brexit」に思う

Topics

- 1 センター長よりメッセージ:
「Brexit」に思う
- 2 教養教育・伝統文化実践
科目「邦楽器演習」
- 3 群馬大学留学フェア
2016
- 4 外国人学生のための進学
説明会
- 5 群馬大学公開講座
「異文化間コミュニケーション・トレーニング」
- 6 海外研修・交換留学生募
集情報
- 7 An invitation to the new
GUGL English Café
- 8 インターナショナルラウンジ
交流会

今年6月の Brexit には心底驚いた。当のイギリス人が驚いているのであるから当然である。イギリス人の友人に尋ねてみたところ、「離脱」に投票した人は身近には一人もおらず、まるで現実感がない、悪夢のようだと話していた。しかし以前から大多数のイギリス人は自らをヨーロッパ人として認識していないというアンケート結果が出ていたことを思えば、想定内とも言える。

この決断を促した経済のグローバル化や移民の大量流入への懸念の背景には、自国のアイデンティティ崩壊への強い危機感があっただろう。2011年の国勢調査ではイギリス国民に占める白人の割合は86%であるが、ある2013年の人口統計学の調査は、2050年には62%という西洋諸国中最も低い割合になると予測している。特に大都市での多民族化の勢いは凄まじく、白人が市民の5割を切ったロンドンでは初のイスラム系市長も今年誕生している。多民族化がうまく進行していると見えた裏側で、力学の変化による亀裂が生じていたのだろう。アメリカのように移民により建国された歴史を持たない国において民族の人口比はいつ「臨界点」に達するのか、Brexitは考えさせてくれた。

島国であり「帝国」を失った過去を持つなどイギリスとの共通点も多い日本だが、現在国民の98%が「単一民族」であるとされ、人口比の状況はかなり異なっている。にもかかわらず、在日外国人へのバッシングやヘイトスピーチが横行し、「排外主義」を唱える都知事候補者が10万票以上を獲得しているのだ。後ろ向きになってはならないと思う。「臨界点」は程遠い。今はまだ自国のアイデンティティを保ちつつグローバル化を大いに進める時であり、大学もその一翼を担って行かなくてはならない。

国際教育・研究センター長 末松美知子



Brexit=British+exitの造語
イギリスがEUを離脱すること

教養教育・伝統文化実践科目「邦楽器演習」*

2016 年度前期は、箏 8 名、三絃 10 名の留学生と 1 名の日本人学生が参加しての授業となりました。毎学期、多くの学生さんが興味を持って履修して下さいますが、今回は楽器が足りなく、交代で練習するほどで、賑やかに楽しく日本の楽器を勉強できたのではと思います。

この授業は、初めて日本の楽器に触れる留学生に、まず楽器の各部の名称、弾き方、楽譜の読み方を説明し、唱歌、わらべ唄等を演奏して、日本の音色と共に、日本の曲にも親んでもらいたいと考えています。二学期続けて履修した学生さんは、伴奏パートをひいて、合奏の楽しさを実感してもらいます。授業最終回に行うコンサートでは唱歌をアレンジした曲に加え、リズムカルで華やかな現代曲にも挑戦します。留学生の皆さんはとても熱心で真剣に練習して、素晴らしい上達を見せてくれます。コンサート当日は初心者には難しいプログラムにも関わらず、迫力のある素敵な演奏を聴かせてくれました。留学生のプログラムで日本の伝統楽器を演奏することは素晴らしく、その授業に関わらせて頂くことを幸せに思います。留学生との別れは寂しいですが、日本での思い出の一つとして箏、三絃を演奏した経験が皆さんの心の中に残っていただきたいと思います。

群馬大学非常勤講師 中畝詩歩



学期末の発表会(「邦楽コース演奏会」)で箏を演奏する留学生たち。手前にあるのが、三絃。毎学期、多くの学生が興味を持って履修しています。

* 2008 年度に「日本研究『武道・芸術』実践プログラム」として開始されました。プログラムは、①武道コース、②日本美術コース、③邦楽コースからなっており、第 1 期(10 月～3 月)、第 2 期(4 月～9 月)に分かれています。邦楽コースは 1 期 2 科目(三絃 1、箏 1)から選択できます。このプログラムは、2014 年度から教養教育「日本語・日本事情科目」となり、受講生は単位取得ができるようになりました。(国際教育・研究センター 野田岳人)

群馬大学留学フェア 2016



講演「キャリアにつながるオーストラリア留学」。国の魅力や具体的留学方法が紹介されました。

4 月 27 日、大学会館において留学フェアを実施しました。今回はブリティッシュ・カウンシルとオーストラリア大使館から担当者を招き、両国の魅力について話してもらいました。また例年通り、本学のプログラムの紹介、英語学習の相談、学部等の先生方による留学相談も行いました。今年度は新しい試みとして、翌日の 28 日、図書館の「アゴラ」において、英語研修プログラムと英語学習の相談を受けました。両日を合わせ、参加者は 300 人を超えました。一人でも多くの学生が留学してくれることを願っています。

国際教育・研究センター准教授 野田岳人

👉 2016 年度国際教育・研究センター実施の海外短期研修、交換留学プログラム生募集については 4 面参照。

外国人学生のための進学説明会

6月7日（火）に渋谷ヒカリエホールで開催された「外国人学生のための進学説明会」に、国際交流課の高平係長、伊澤係長と参加してきました。この留学フェアは株式会社アクセスリードが開催しており、JASSO 主催の外国人学生のための進学説明会と並び、多くの留学希望者が参加する説明会です。

今回参加した説明会は、真剣に入学を検討している学生の来場が多いことが特徴と言われており、他大学の留学生担当者からは「ここは真剣勝負ですよ。本当の戦場ですから、大変ですよ」というような声も聞かれました。

当日の群馬大学ブースは、行列が出来るといってはありませんでした。開始から終了まで途切れることなく相談者がやってきていました。希望する学部は理工学部が最も多いものの、それ以外でも社会情報学部、医学部保健学科、教育学部などに希望が分散する傾向が見られました。

今回の説明会后、群馬大学のオープンキャンパスに参加したり、希望する専門分野の教員とメールでやりとりを始めたりと、留学フェアをきっかけに群馬大学への入学を実際に考え始める学生も出てきています。

受入留学生数の目標値達成のためにも、このような機会に優秀な留学生の目を群馬大学に向けることが出来ればと考えています。

国際教育・研究センター准教授 牧原功



当日の会場の様子。群馬大学のブースも開始から終了まで途切れることなく相談者がやってきました。

群馬大学公開講座 「異文化間コミュニケーション・トレーニング」

2016年7月23日、30日、8月6日の3日間、群馬大学荒牧キャンパスにおいて、公開講座「異文化間コミュニケーション・トレーニング—多文化化する社会に必要とされるスキルとは—」を開催しました。

群馬県内はもちろん、遠くは埼玉県から、高校生を含む一般社会人12名の方が参加され、文化の異なる人々と理解し合い、コミュニケーションを行うための基本的な知識とスキルを学びました。また、講座には7か国の留学生がアドバイザーとして参加し、参加者は留学生とともにディスカッションしたり、共同作業を行ったりしながら、異文化理解を深め、異文化間コミュニケーションを実体験していただきました。

講座では、いつも自然に参加者や留学生からの積極的な発言や笑いが沸き起こり、1回2時間という時間があっという間に感じられました。さらに、参加した留学生にとっても、様々な年齢や職業の日本人の方と交流できる今回の経験から、多くの学びを得ることができたようでした。私自身も日頃の講義とは異なる人々との学び合いで、新しい発見のある3日間でした。来年度以降も引き続き同様の講座を開催し、地域の人々の異文化理解に貢献していきたいと考えています。

国際教育・研究センター講師 園田智子



県内外から集まった参加者は留学生と共に異文化間コミュニケーションを実体験しました。

海外研修・交換留学情報

●短期研修プログラム（2～4週）

| | 異文化理解プログラム | 英語研修プログラム |
|------------------------|---|---------------------------------------|
| 2016 夏 | 泰日工業大学（タイ） 建国大学（韓国） | キール大学（イギリス） |
| 2017 春 まもなく 募集開始 | リュブリアナ大学（スロベニア） 建国大学（韓国）, 国立台北教育大学（台湾） | サンディエゴ州立大学（アメリカ） ウーロンゴン大学（オーストラリア） |

●交換留学プログラム（半年～1年）

2017 夏・2018 春派遣学生の募集をまもなく（11月）開始します！
英語圏の協定校への応募には、TOEFL、IELTS 等英語スコアの提出も必要です。応募締切は1月です。

An Invitation to the New GUGL English Café ～GUGL イングリッシュカフェ、始まります～

Interested in practicing your English speaking? Come and join the Gunma University Global Lounge English Café. For any length of time, any level of English. Just try!

国際教育・研究センター講師
Sylvain Bergeron

2016 年秋、中央図書館（荒牧）アゴラにて、
イングリッシュカフェが始まります！



What: Free English conversation

Who: Staffed by Gunma University English teachers; For any interested students, any level of English

Where: Aramaki Library 1F, Agora Seminar Rooms

When: Every Monday and Wednesday 12:00 – 14:00

Contact:
Sylvain Bergeron,
bergeron@gunma-u.ac.jp
Richard Sampson,
sampson@gunma-u.ac.jp

Organized by: 国際教育・研究センター／大学教育センター

インターナショナルラウンジ交流会

7月13日ランチタイム、桐生キャンパス7号館5階インターナショナルラウンジにて、「留学生の国はどんなところ？」というテーマで学生交流会を行いました。日本、ベトナム、ラオス、中国・台湾、モンゴル、タイ、フィリピンなど20人を超える学生の参加がありました。ベトナム、中国、韓国の留学生に、勉強中の日本語や、英語で国の紹介をもらったあと、参加者同士で自由に交流しました。特に発表の中で紹介された各国の大学生活の様子や、就職事情、また人気アイドルの話題で盛り上がりました。参加者からは、ぜひまた行いたいという声があがりました。このような交流会はこれまでも度々不定期で行っていますが、同じ

キャンパスにいてもなかなか知り合う機会がないという学生間の出会いの場、身近な国際交流の場として学生が新たな世界を知るきっかけとなることを願っています。



桐生7号館5階インターナショナルラウンジ。ランチ、勉強、チューター活動、自由に使えるスペースです。

国際教育・研究センター講師 大和啓子・船橋瑞貴